

地域高規格道路

小松白川連絡道路



石川県・岐阜県

地域高規格道路 小松白川連絡道路

小松白川連絡道路は、石川県小松市と岐阜県大野郡白川村を結ぶ延長50kmの地域高規格道路として計画されています。

●道路交通の現状

石川県と岐阜県は隣接しているにもかかわらず、両県を結ぶ国道360号は、白山山系により阻まれ、県境部が未供用になっています。また、唯一の道路である白山白川郷ホワイトロード(有料道路)は、積雪期間は通行止めとなるため、年間の通行日数は150日程度となっています。そのため、白山白川郷ホワイトロードが通行止めの時には、石川県加賀・白山麓地域と岐阜県飛騨地域は、直接的な交流を行うことができません。

●地域の特性

加賀・飛騨両地域は、「白山」に代表される豊かな自然環境を活かした観光資源をはじめ、加賀百万石の情緒を今に伝える「金沢」、風情ある温泉郷として親しまれている「加賀温泉郷」、世界文化遺産に選ばれている「白川郷」の合掌づくり、高山祭りで知られる「高山」など、伝統と文化の香り漂う多様な観光資源に恵まれています。

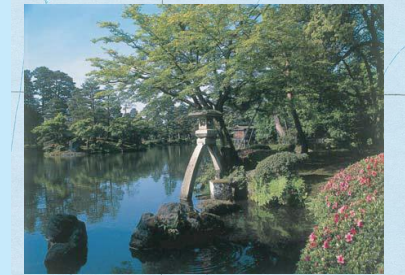
さらに、小松市には北陸を代表する空の玄関口「小松空港」があり、交通の拠点となっています。



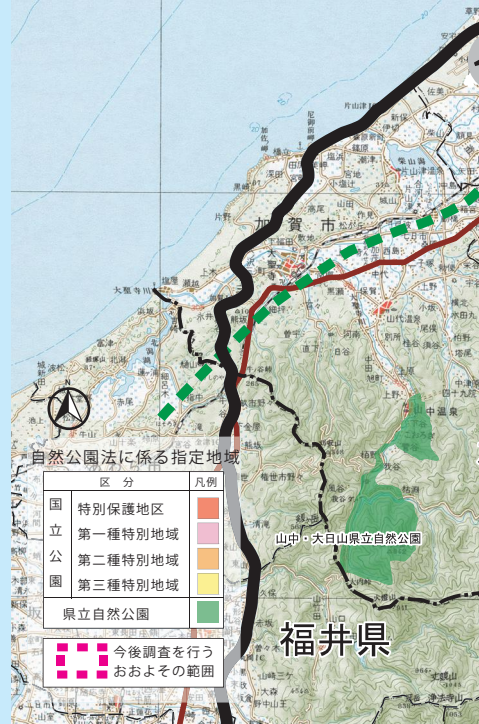
小松空港



加賀温泉郷



兼六園



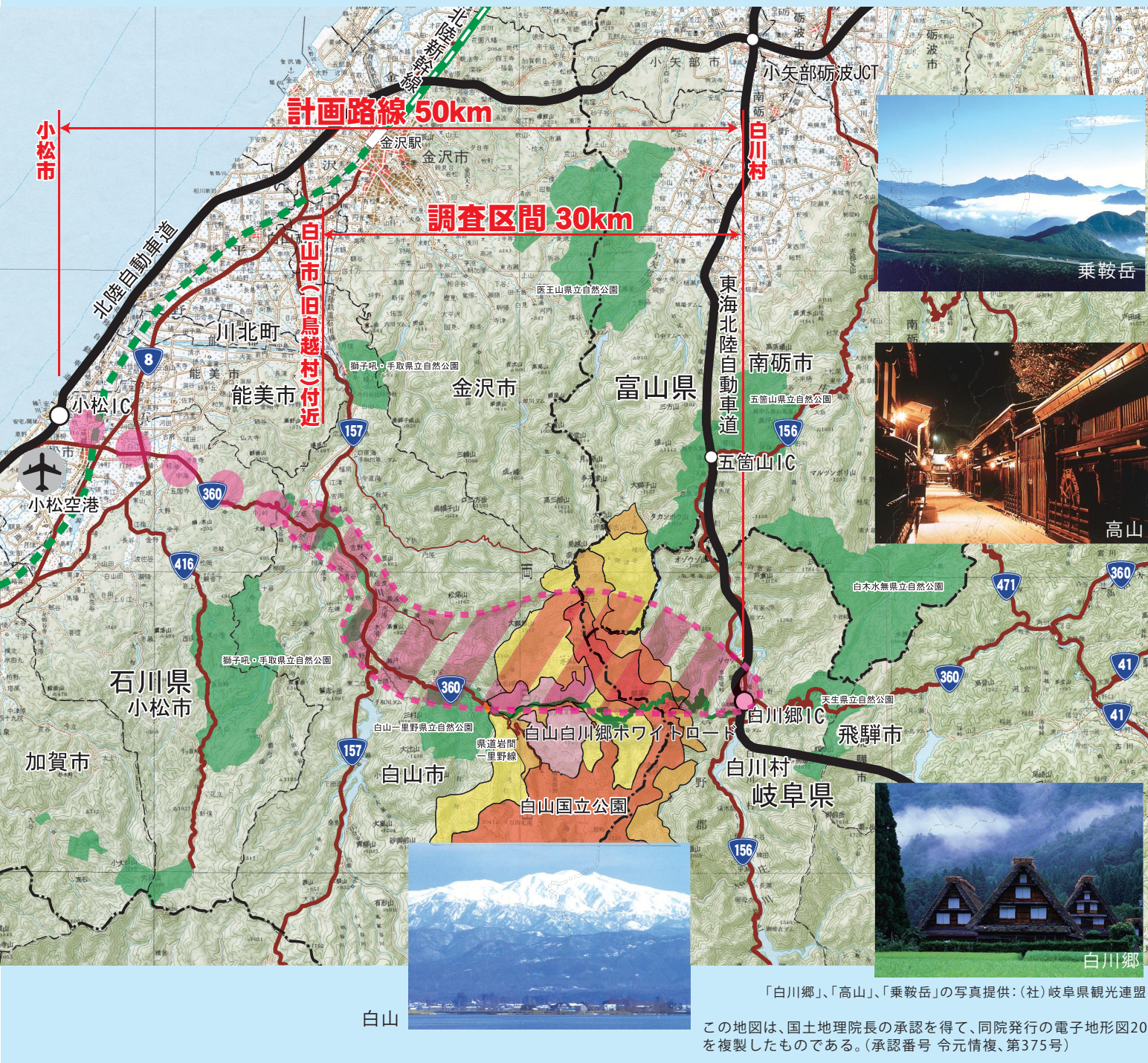
●期待される整備効果

小松白川連絡道路の整備により、冬期でも安全で確実な交通が可能となり、加賀・白山麓地域と飛騨地域の交流が促進されることとなります。さらに、東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道と一体となって、加賀・白山麓地域と首都圏や中京圏とを最短で結ぶだけでなく、小松空港の利用圏域を飛騨地域にまで広げることとなり、環日本海交流の中心として、観光・物流など国内外との広域交流が行えるようになります。

小松白川連絡道路を通じて物が運ばれ、人が集まり、地域に新たな活力を与え、石川・岐阜両県の発展に大きく貢献する道路として期待されます。



ROUTE 360



●整備方針

首都圏や中京圏とを最短で結ぶために起点を白川郷IC付近とし、事業効果の早期発現や沿線地域への波及効果の観点から、現道を出来るだけ活用することとしています。

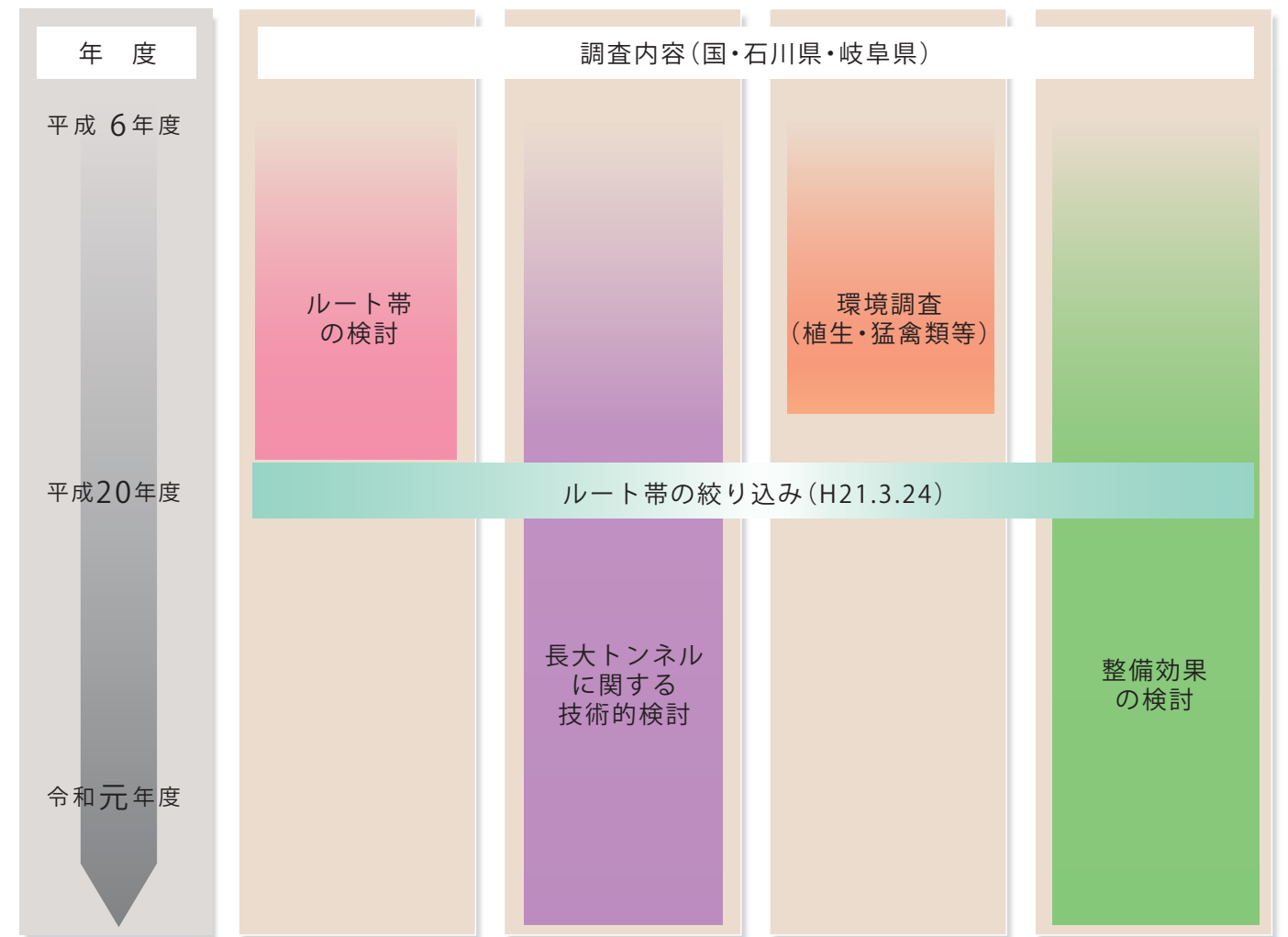
●実現に向けた取り組み

県境部で想定されている長大トンネルに関する技術的な検討や、自然環境に関する調査など幅広い分野において、国・石川県・岐阜県が連携して調査を進めています。

国道360号の認定及び指定経緯

- 村道 中宮温泉線・国見線・三又線・三方岩線 昭和62年12月 認定
- 一般県道 白川瀬戸野線 平成 元年 2月 認定
- 一般国道 360号 平成 4年 4月 指定
- 地域高規格道路
 計画路線 白川村～小松市 L = 50 km 平成 6年12月 指定
 調査区間 白川村付近～白山市(旧鳥越村)付近 L = 30 km 平成 7年 8月 指定

小松白川連絡道路の調査経緯



石川県 土木部 道路建設課

〒920-8580
石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL.076-225-1111(代表)

岐阜県 県土整備部 道路建設課

〒500-8570
岐阜県岐阜市藪田南2丁目1番1号
TEL.058-272-1111(代表)

整備効果について

直接効果

時間短縮

小松白川連絡道路の整備によって加賀・飛騨両地域間の移動時間が短縮されます。



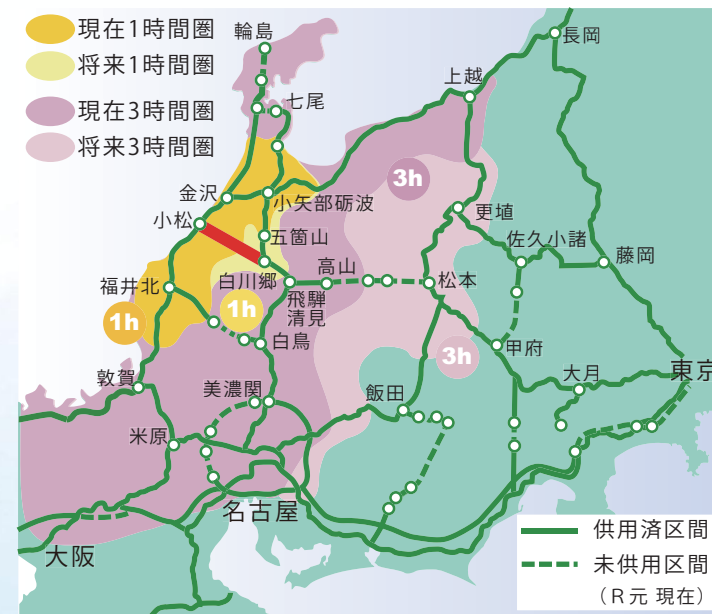
年間を通しての交通の確保

小松白川連絡道路の整備によって、石川県と岐阜県の年間を通しての交通が可能となり、白山白川郷ホワイトロードが通行止めとなる積雪期間において生じる大幅な迂回が解消されます。



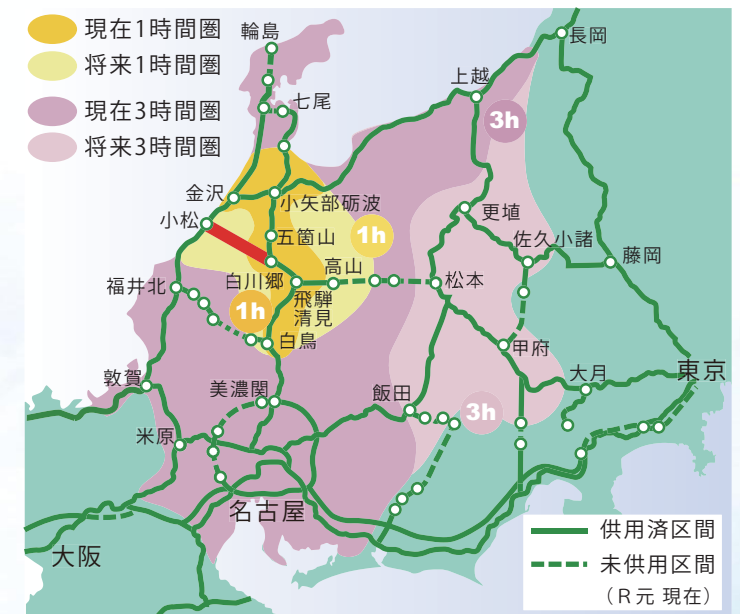
白山白川郷ホワイトロード通行止状況

●小松からの時間圏の広がり



※「将来」とは、小松白川連絡道路・中部縦貫自動車道等が供用した時点

●白川からの時間圏の広がり



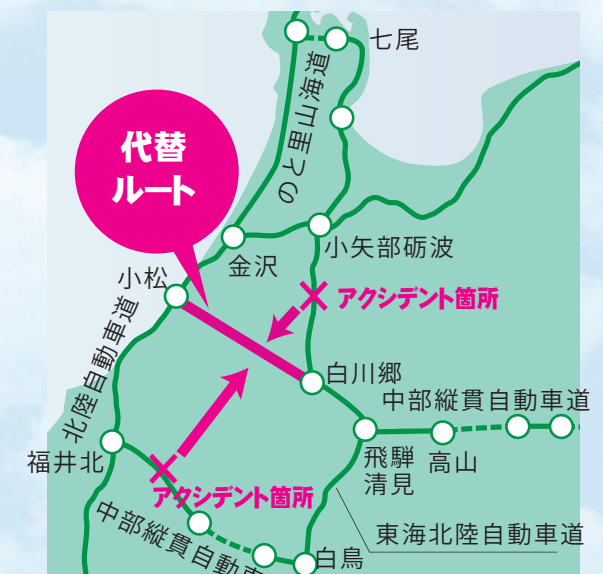
※「将来」とは、小松白川連絡道路・中部縦貫自動車道等が供用した時点

リダンダンシー機能の確保

小松白川連絡道路の整備により、大規模災害、積雪、事故等が発生した際の代替路が確保され、緊急時にも生産拠点と物流拠点等をつなぐ多重な信頼性の高い道路ネットワークを構築します。



東日本大震災における常磐自動車道(水戸IC～那珂IC)の被災状況 (提供: NEXCO東日本)

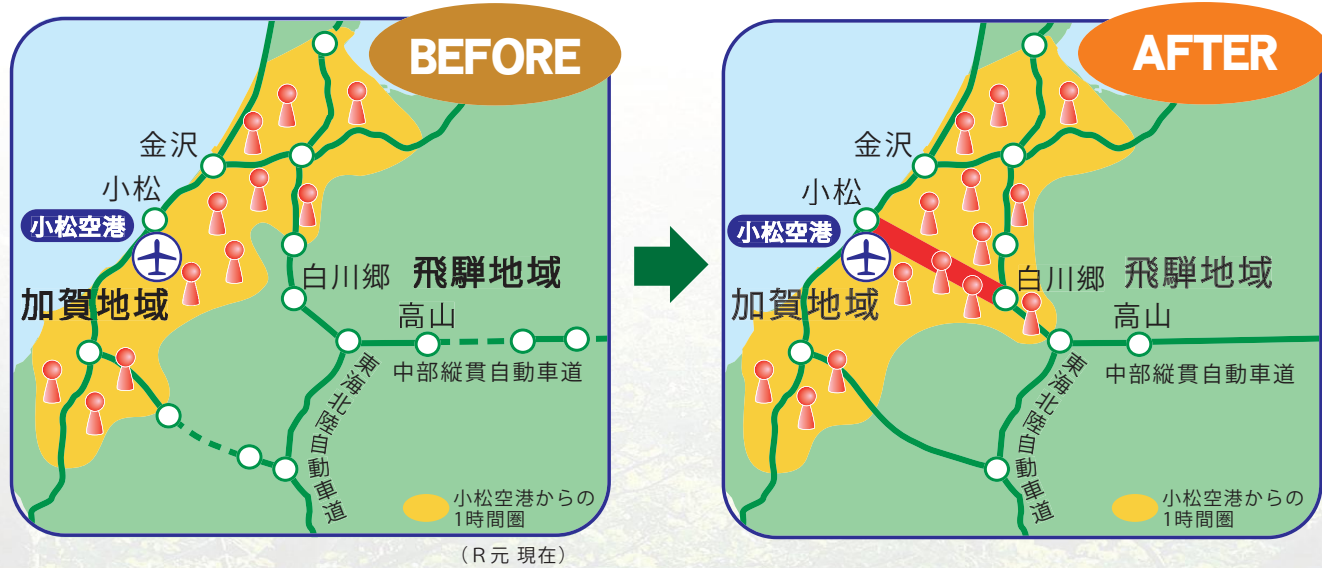


波及効果

国際交流の促進

ROUTE 360

小松白川連絡道路の整備により、小松空港の利用圏域が大きく広がります。
また、小松空港と東海北陸自動車道や中部縦貫自動車道が最短で直結され、加賀・白山麓地域と飛騨地域が国内だけでなく国外との交流の玄関口となることが期待されます。



広域観光圏形成への寄与

ROUTE 360

小松白川連絡道路の整備によって、金沢、加賀、白山麓、白川郷、高山等を結ぶ新たな広域観光圏が形成されます。これらの広域的な観光連携により、観光入り込み客数の増加が期待できます。



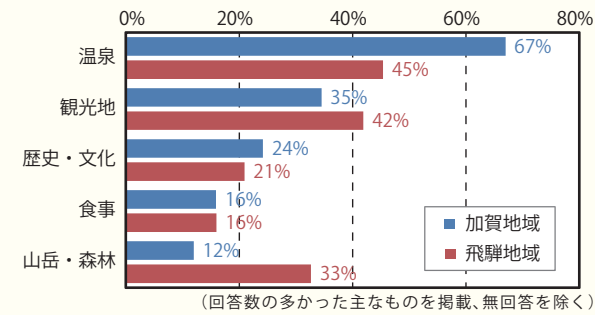
小松白川連絡道路に対する観光客の意見

ROUTE 360

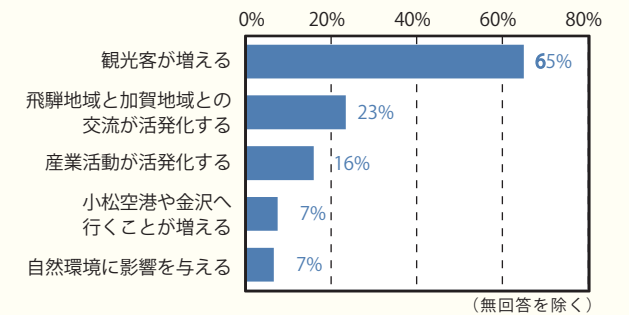
北陸新幹線開業後の観光客のニーズ等を把握するため、加賀地域の道の駅などで、一般観光客を対象として、加賀地域・飛騨地域のイメージや小松白川連絡道路に関する効果・影響等についてヒアリング調査を平成27年度に行いました。

その結果、加賀地域・飛騨地域ともに「温泉」「観光地」というイメージが強いことがわかりました。また、小松白川連絡道路の効果・影響については、「観光客が増える」「交流が活発化する」などを期待する意見が多いことがわかりました。

● 加賀地域・飛騨地域のイメージ(複数回答)



● 小松白川連絡道路の効果・影響(複数回答)

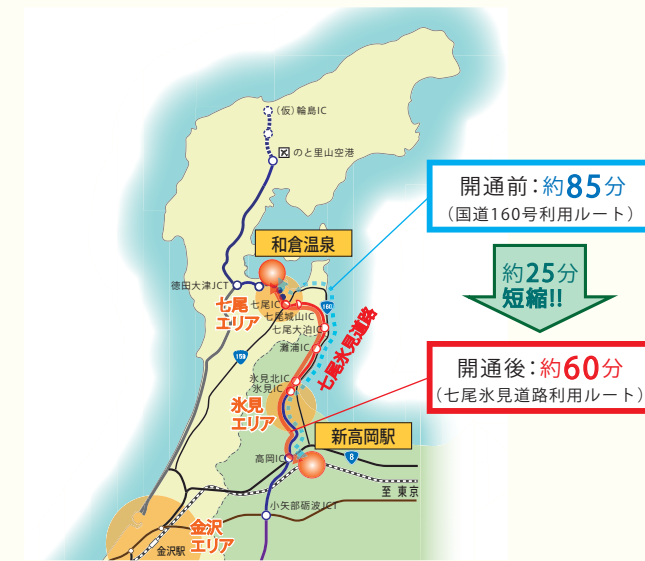


県を跨ぐ広域道路の整備による効果の実例

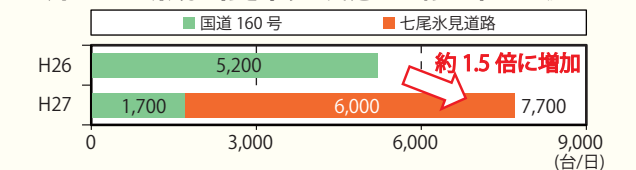
ROUTE 360

平成27年2月の能越自動車道 七尾氷見道路の全線開通が、周遊観光の増加、物流・生産性向上の支援などに貢献しています。

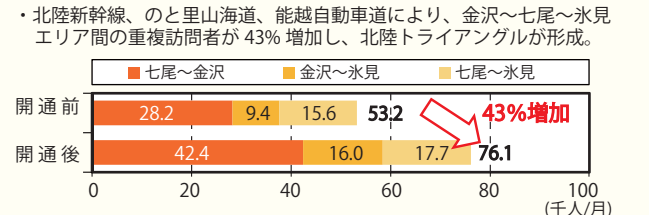
● 新高岡駅～和倉温泉間の所要時間が約25分短縮



● 石川・富山の県境を行き来する交通量が約1.5倍に増加



● 金沢・七尾・氷見エリアを重複する観光客が43%増加



● 能登地域に新規企業が多く進出

